

韓国農村集落における風水景観に関する研究 その1 —農村集落景観調査による風水と景観の関係の把握—

正会員 ○野口 浩平^{*1} 同 佐藤 誠治^{*2} 同 小林 祐司^{*3}
同 姫野 由香^{*4} 準会員 山口 泰佑^{*5}

7. 都市計画 — 6. 景観と都市設計 c. 景観イメージ・景観評価
韓国 風水 景観 集落

1. 研究の背景

1-1. はじめに

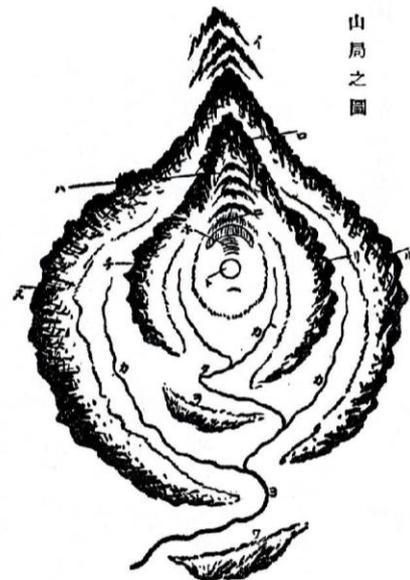
風水は、地形と人間の営みを結びつける極めて環境重視の作法である。それによってつくられた景観は私たちの感性に訴えかけ、いわゆる腑に落ちる感情が沸き起こる。これはなかなか理論的には説明がつかないものであるが、景観を研究する人間には避けては通れないものである。

1-2. 風水とは

村山智順¹⁾は著書「朝鮮の風水」で、風水の意義を語っている。まず、風水という名義は「郭璞(276-324)」が著書「葬經」の中で「生氣は風に散じられ、水に止められる。つまり生氣に乗ずるには生氣を貯蔵することを必要とするので、風を遮り、水を得ることが葬法の根本原則である」と述べているのが由来である。

そして、風水の根本目的は「人生を天地の間に託して榮華を効さんとする」にあるとしている。人は天地の間に生じ、天地の間に生きてゆくものであり、天地以外のものによって生きていくということは全然できないのである。その中でも、人間の生活は地上において営まれ、人生に対する関係は天よりも直接的である。そのため、風水は地と密接に関係があると言える。このように、吉地を選び、その地に住宅をトするのが風水というわけである。

また、風水の構成は、山・水・方位の三者によって成立するとしている。理想的な風水の地形を図1に示す。背後に高くそびえる山(=主山、鎮山)があり、前方に水流(=得、水口)があり、周囲には四神砂と呼ばれる「玄武(北)」、「青龍(東)」、「白虎(西)」、「朱雀(南)」を表す山々があることとされている。



メヨカヲテルヨリチトヘホニハロイ
内外水朝案外外内内穴明眉頭入主祖
水水 青白青白 宗
口口 山山龍虎龍虎 堂砂鬮首山山

図1 理想的な風水の地形¹⁾

2. 研究の目的

2-1. 既往研究との位置付け

風水に関する計画学的研究は、李²⁾による「風水説における理念の考察 —風水に関する計画学的基礎研究 その1—」、張・北原³⁾の「風水の別称からみた風水の原点と本質 —都市計画における風水思想の基礎研究—」、椿・坂本・北野⁴⁾の「集落の風水史料および古地図に基づく八重山地方の集落坐向 —風水思想による沖縄の集落空間形成に関する研究 その1—」など数多くが存在する。

また、風水と景観を用いた研究は、松井・東條⁵⁾の「数値地図情報を用いた地理的スケールの都市景観

に関する研究「風水思想をふまえたCGモデルによる都市景観分析(その1)(その2)」や、岩崎ら⁷⁾による「3次元コンピュータグラフィックスを用いた景観構造分析に関する研究「風水思想をふまえた視野域の形態分析」がある。これらは風水思想を景観の評価に利用したものである。

本研究では、風水によって構成された景観を、景観的な観点から分析し、風水景観の構成を明らかにすることを目的とする。本稿では、風水と景観の関係と風水景観を有する対象集落について述べる。

2-2. 風水景観とは

福岡義隆⁸⁾は「風水と景観「風水観は科学的か」」において、「風水景観」を次のように定義している。「自然要素を多分に取り入れることによってアメニティに満ちた都市、個性あふれる(表情豊かな)都市の創造が可能であり、その自然的要素としては、緑地や水面などが重要な役割を演じていることは言うまでもない。これらを総合的に取り込んだ景観が「風水景観」である。」としている。

しかし、都市は多様な要素によって構成されており、風水の要素を抽出することは困難である。風水景観が自然物と人工物の織りなす景観であるとするれば、自然と人の関係がはっきりしている、農村集落を対象として風水景観を明らかにすることは非常に意味のあることである。

3. 研究の方法

本研究の流れとして、第一に風水景観を有する集落の選定を行い、対象集落で景観調査を行う。それによって得られた結果をもとに研究を進めることとする。

3-1. 対象地域の選定

本研究では、フィールドを韓国の慶尚南道から全羅南道にかけての88オリンピック高速国道沿いの地域に設定した。かつて、高速道路を走行中の乗用車から視察した地形と集落の位置関係と、それによって受ける景観的な特性が極めて風水を彷彿とさせられたからである。

そのほか、文献を見るに、木内信蔵⁹⁾による著書「都市・村落地理学」では、朝鮮半島における村落位置の

決定には伝統的な風水地理説が深く根付いていると言われている。

また、渋谷鎮明¹⁰⁾は「環中国海の民俗と文化4 風水論集」において、韓国で李氏朝鮮時代(以下、李朝とする)の邑集落にみる風水地理説研究を行っている。李朝は風水説の全盛期であり、集落の内部構造にまでその影響が及んだとされている。そして、「新增東国輿地勝覧」に掲載された邑集落331ヶ所について位置を確認し、植民地(日韓併合)時代の陸地測量部作製の五万分の一地形図上にプロットした。これから、韓国南部に邑集落が多く分布しているのが分かる。

そして、村山智順¹¹⁾の「朝鮮の風水」、都邑の風水の中では、韓国慶尚南道の周辺に風水的厭勝の物語が多く書かれている。

詳細な山河網が記入された「大東輿地図」¹¹⁾を見ても、慶尚南道から全羅南道の地域は風水的に良い地域であることが分かる(図2)。

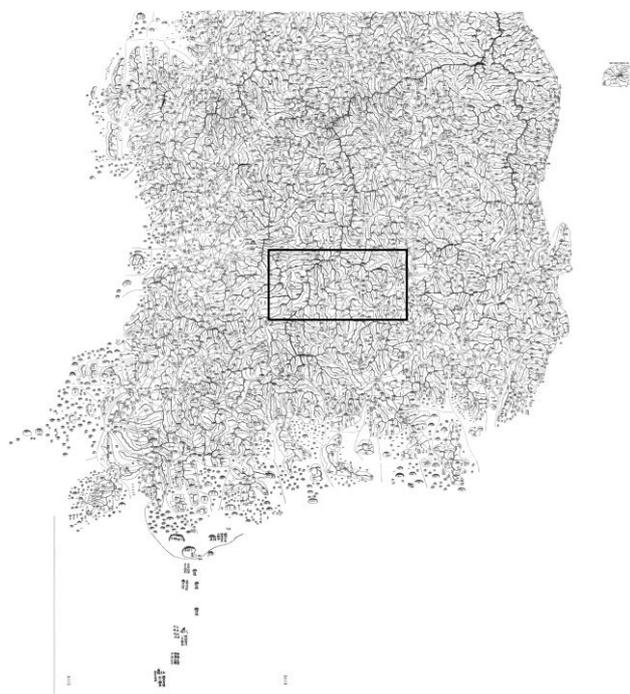


図2 大東輿地図
(四角で囲まれた部分が図3対象地域)

3-2. 対象集落の選定

渋谷鎮明¹⁰⁾は「環中国海の民俗と文化4 風水論集」において、韓国の農村集落を地形ごとに7つに分類している。

本研究ではこの7類型をもとに「Daum」¹²⁾上で対象集落を選定した。選定した13集落を図3に示す。



図3 調査対象集落

この図から、どの集落も山に面した位置にあることがわかる。ギョチャン郡、ハミョン郡は山に囲まれた立地をしているため、風水地形を有した集落はその山沿いに多く分布しているといえる。

4. 集落調査

4-1. 集落調査の内容

対象集落の調査は、2010年8月1日から8月4日にかけて行った。調査内容は、景観写真の撮影と、集落の全体構成、要素分布の把握を目視、集落の住民へのヒアリングをもとに行った。

4-2. 集落調査の結果

集落調査の集計表を表1に示す。

まず全体構成から、四神方向の要素をみると、それぞれの集落によって集落内の要素はさまざまであったが、玄武・青龍・白虎は山や嶺線に面し、朱雀は田畑・道路・川など開けている場合が多かった。これは理想的な風水地形のモデルと一致する。集落外の要素は、玄武・青龍・白虎・朱雀の4方向が山である場合が多かった。いずれの集落も、集落の外では4つの山に囲まれた構成をしていることが分かる。これも風水地形のモデルと一致する。

墓の位置は、主山の中腹・主山の裾など、主山付近に集められていることが分かった。村山智順¹⁾の著書

「朝鮮の風水」によると、韓国の風水思想では、墓を住宅よりも風水的に良いとされる位置に配置する傾向がある。そのため、より主山に近い位置へ墓が配置されている。

次に要素分布をみると、全ての集落において主山を特定することができた。どの集落も山を背後に位置した構成をとることが分かる。山の名前はヒアリング調査で得られたものと「Daum」¹²⁾及び「Google Earth」¹³⁾上で確認したものを記入している。×と記入されている部分は、「裏山」と住人が認識している山、もしくは「嶺線」であったものである。

亭の項目をみると、樹木の亭は全ての集落で確認することができたが、建物の亭はある集落とない集落があった。ヒアリング調査によると、建物の亭は近年の国の施策として建てられたということであった。また、亭は集落の入り口部分に設けられている場合が多く、樹種はケヤキ(欒)が多かった。亭はいずれの集落でも、日よけの空間、または集落のコミュニティスペースとして機能しており、集落内の住民の憩いの場となっていた。

祠堂は13集落中3つしか確認することができなかった。全ての集落に配置されているわけではなく、規模の大きい集落に配置されていた。

集会所は全ての集落で確認することができた。韓国では集落内に集会所を設けることが決められており、

No.	集落名	既往研究による類型	全体構成								要素分布													
			四神方向の要素								主山の特定	山の名前				亭			集落内水系	祠堂	集会所	生活施設	風水の住民認知	
			集落内				集落外					玄武	青龍	白虎	朱雀	建物	樹木	樹種						
玄武	青龍	白虎	朱雀	玄武	青龍	白虎	朱雀	基の位置																
1	龍山(ヨンサン)	合流点	山	川	田	川	山	山	山	畑	北の山	可	龍山	スンジ山	ポウヘ山 ソナナ山	×	×	○	樟・桜	河川	×	○	×	有
2	松邊(ソンビョン)	青山	田	田	田	田	山	山	山	道	主山中腹	可	ガングウル クントウトウク トル	ジャグントウ トウクル	×	トウギョ山	○	○	樟	水路 池	×	○	×	有
3	東邊(ドンビョン)	青山臨水	山	畑	川	川	山	山	山	山	分散	可	×	クンギーボン	アホク山	×	○	○	樟	河川	×	○	商店	有
4	武陵(ムルン)	青山臨水	山	畑	畑	川	山	山	山	山	遠い所	可	×	アンサン	×	×	○	○	樟・櫻	河川 池	○	○	商店 診療所 学校	有
5	茂村(ムチョン)	青山臨水	山	畑	山	川	山	山	山	畑	主山裾	可	×	カットコル	ハンジコル	ガマク山 ターラン山 コンジコル	○	○	銀杏	河川 水路	×	○	×	有
6	院坪(ソビョン)	青山臨水	山	山	田	道	山	山	山	田	遠い所	可	ヨヌハ山	月明山	×	×	○	○	樟	水路	×	○	食堂	有
7	汀始(ヤンジ)	谷奥	山	川	山	畑	山	山	山	山	主山中腹	可	斗霧山	吾道山	ガマク山	朴儒山	○	○	樟	河川	○	○	×	有
8	龍田(ヨンジュン)	谷奥	田	田	田	田	山	田	嶺	田	主山中腹	可	チャングンボン	飛鷄山	×	ミーインボン 朴儒山	○	○	樟	水路	×	○	商店が昔 あった	有
9	安琴(アングン)	蔵風得水	山	谷	嶺	畑	山	嶺	嶺	山	主山裾 分散	可	朴儒山	×	×	ミンヨボン 飛鷄山	×	○	樟	×	×	○	×	有
10	東嶺(ドンリョン)	蔵風得水	田	嶺	嶺	道	山	山	山	山	分散 集落内	可	×	×	アン山	大龍山	○	○	樟	水路	×	○	商店が昔 あった	有
11	屯洞(ドンドン)	山城	山	畑	山	畑	山	嶺	嶺	山	中腹 分散	可	ドゥグジェ ガンシンリョン	×	×	ヴェドゥン山	○	○	松	×	×	○	×	有
12	内春(ネチュン)	山城	山	山	山	山	山	山	山	山	主山中腹	可	フルタンコル チョンジコル ピョンファンジェミ	×	ウエチャンジェ	ガマク山	×	○	樟	河川	×	共有	×	有
13	道川(ドチョン)	尾根	山	田	田	道	山	山	山	山	遠い所	可	テイブン山	ペイアン山	ネフン山	×	○	○	樟	河川	○	○	商店2つ	有

表1 集落調査集計表

集落で確認した集会所は、どれもほぼ同じ規模、同じデザインのものであった。

生活施設は、規模の大きい集落には商店が設けられている場合が多い。中には診療所や学校がある集落もあった。

風水の住民認知は、全ての集落で「有」と確認された。集落で暮らす住民は、自分たちの集落は風水に基づいてつくられていることを認識していた。

5. 総括

本稿では、農村集落の風水景観を把握するため、風水の原理で構成された集落を選定し、その集落に対して景観調査を行った。

集落調査の結果から、13集落すべてで主山を背にした構成が確認できた。また、玄武・青龍・白虎・朱雀の4方向が山で囲まれた集落がほとんどであった。これらから、本研究で対象とした集落が風水に基づいてつくられた集落であることが分かる。

今回の集落調査で訪れた農村集落には、確かに風水景観を感じた。

【参考文献】

- 1) 村山智順：「朝鮮の風水」, 朝鮮総督府, 1931年
- 2) 李桓：「風水説における理念の考察 一風水に関する計画学的基础研究 その1一」, 日本建築学会計画系論文集, No.456, pp.115-121, 1994.11
- 3) 張翠萍・北原理雄：「風水の別称からみた風水の原点と本質 一都市計画における風水思想の基礎研究一」, 日本建築学会計画系論文集, No.491, pp.125-133, 1997.1
- 4) 椿勝義・坂本磐雄・北野隆：「集落の風水史料および古地図に基づく八重山地方の集落坐向 一風水思想による沖縄の集落空間形成に関する研究 その1一」, 日本建築学会計画系論文集, No.500, pp.213-220, 1997.10
- 5) 松井宏樹・東條貴亮・佐藤誠治・有馬隆文：「数値地図情報を用いた地理的スケールの都市景観に関する研究 一風水思想をふまえたCGモデルによる都市景観分析(その1)一」, 日本建築学会学術講演梗概集(近畿), 7441, 1996.9
- 6) 松井宏樹・東條貴亮・佐藤誠治・有馬隆文：「数値地図情報を用いた地理的スケールの都市景観に関する研究 一風水思想をふまえたCGモデルによる都市景観分析(その2)一」, 日本建築学会学術講演梗概集(近畿), 7442, 1996.9
- 7) 岩崎紀之・佐藤誠治・有馬隆文：「3次元コンピュータグラフィックスを用いた景観構造分析に関する研究 一風水思想をふまえた視野域の形態分析一」, 日本建築学会学術講演梗概集(東海), 7144, 1994.9
- 8) 福岡義隆：「風水と景観 一風水観は科学的か一」, 地理科学, Vol.51, No.3, pp.163-168, 1996
- 9) 木内信蔵編：「都市・村落地理学」, 朝倉書店, 1967
- 10) 渡邊欣雄・三浦國雄編：「環中国海の民俗と文化4 風水論集」, 凱風社, 1994
- 11) 金正浩：「朝鮮地名資料集成1」大東輿地図, 草風館, 1994年
- 12) 「Daum」, 韓国地図サイト, <http://local.daum.net/map/index.jsp>
- 13) 「Google Earth」, <http://www.google.co.jp/intl/ja/earth/index.html>

*1 大分大学大学院工学研究科博士前期課程

*2 大分大学工学部福祉環境工学科・教授 工学博士

*3 大分大学工学部福祉環境工学科・准教授 博士(工学)

*4 大分大学工学部福祉環境工学科・助教 博士(工学)

*5 大分大学工学部福祉環境工学科 学部生

*1 Graduate Student, Oita Univ.

*2 Professor, Dept. of Architecture, Faculty of Eng. Oita Univ., Dr.Eng

*3 Associate Professor, Dept. of Architecture, Faculty of Eng. Oita Univ., Dr.Eng

*4 Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng. Oita Univ., Dr.Eng

*5 Undergraduate Student, Oita Univ.